

精神的症状 “うつおよび身体表現性障害” に漢方治療が奏功した症例

土方康世

東洋堂土方医院, 大阪, 〒 567-0031, 茨木市春日 3-11-29

Kampo medicines worked to treat the “depression and somatoform disorder”

Yasuyo Hijikata

Toyodo Hijikata Clinic, 3-11-29, Kasuga, Ibaraki, Osaka, 567-0031, Japan

Abstract

The number of salaried men and women suffering from depression has been increasing in recent times. Some of these people have committed suicide and the the number of lawsuits for wrongful death are increasing. This is a strong indication that the lifestyle diseases accompanying hypertension or coronary artery diseases follow depression and that is the depression that triggers the lifestyle diseases. The soothing “Liver” prescriptions, kamisyoyosan, tokisyakuyakusan and yokukansankachimpihange worked to treat depression in many cases. In cases of ineffectiveness of standard therapy or suffering from side effects for patients of depression, Kampo medicines are prominent choices.

Clinical cases are shown below.

Case 1. A 76 years-old widow suffering from depression for 2 years following her husband’s death. She was diagnosed as liver qi depression, kidney yang deficiency spleen ying shortage and qi deficiency. Treatment with hochuekkito and powder of soft-shelled turtle resulted in insufficient improvement. The addition of nyoshinsan led to complete improvement.

Case 2. A 28-year-old female suffered from premenstrual syndrome since her first menstruation, and her condition had worsened recently to the premenstrual dysphoric disorder with severe depression. It degraded her social quality of life drastically. She was diagnosed with liver qi depression transforming into fire,

blood stasis and kidney yang deficiency. kamisyoyosan and modified sesshojin were administered followed by incomplete remission. The addition of nikkei, keishi, hagekiten, zokudan and nikujyuyo worked dramatically.

Case 3. A 23-year-old male had chronic symptom of bad stomach triggered by stress since 3 years ago was diagnosed with indistinguishable somatoform disorder for which standard treatment didn't work. He was diagnosed as having liver qi depression and liver fire invading to the stomach. Sigyakusan and kyukichyoketsuin worked completely in 14days.

要旨

近年、働く人のうつ病が増えている。ときには自殺にいたり、それに関わる訴訟も増加傾向である。最近、高血圧や冠動脈疾患などの生活習慣病にうつ病が合併したり、うつ病が生活習慣病の引き金になることもわかってきた。最近の傾向としては、“ストレス”がうつ病の引き金になっていることも多く、加味逍遙散・当帰芍薬散・抑肝散加陳皮半夏など疏肝解鬱薬の奏功する症例も多い。標準治療が無効であったり、副作用で使えないうつ病や精神的症状には、漢方治療は有力な治療の選択肢である。

以下、症例を呈示する。

76歳女性の夫亡き後の2年に及ぶうつ状態を肝鬱・腎陽虚・脾陰不足・気虚と弁証し、補中益気湯加スッポン末を投与した。改善したが不十分であった。女神散追加併用で完全寛解した。

28歳女性、月経開始以来続く月経前症候群が最近悪化し、月経前不機嫌性障害の重症うつとなり、社会生活に支障をきたすようになった。肝気鬱結・血瘀・肝鬱化火・腎陽虚と弁証した。加味逍遙散加折衝飲加減法で不完全寛解であったため、月経とは無関係の生来の腎陽虚に対し、肉桂・桂枝・巴戟天・続断・肉苁蓉追加併用で著効した。

ストレスがきっかけで起きた、3年間続く胃膨満感を主とする慢性の胃腸症状が、鑑別不能型身体表現性障害と診断された。標準治療および抗うつ薬が奏功しない23歳男性を、肝気鬱結・肝気犯胃と弁証した。四逆散加芍薬調血飲14日分投与で完全寛解した。

キーワード：うつ病、ストレス、肝鬱、疏肝

Key words : Depression, Stress, Liver depression, Sooth the liver

緒論

近年、働く人の“うつ病”が増え、事実、気分障害の外來受診者数は確実に増えており、この10年間で2～3倍に増えたともいわれている。また、うつ病の最悪の結果である「自殺」の問題も避けて通れない。事実、最近、解雇や自殺も含め、うつ病に関連する訴訟が増加傾向である。労災申請も確実に増え、認定される例も増えている。企業も“うつ”を慎重に扱わざるを得なくなっている。

最近の研究によると生活習慣病にうつ病が合併することが知られ、循環器領域においても、高血圧や冠動脈疾患で抑うつが高頻度に認められ、原疾患の予後を悪くすることが知られている。また、抑うつが生活習慣病の引き金になることも

わかってきた¹⁾。

最近の傾向としては、“ストレス”がうつ引き金になっていることが多く、加味逍遙散・当帰芍薬散・抑肝散加陳皮半夏など疏肝解鬱薬の奏功する症例も多い^{2) 3)}。

個人的経験であるが、標準治療が無効で“うつ”で休職していた人が、補中益気湯単独で著効し、1カ月で職場復帰した症例があった。このときが、漢方薬は“うつ”に使えることを実感した初めての経験であった。

いずれにせよ、標準治療が無効であったり、副作用などで使えない精神的症状には、漢方治療は有力な治療の選択肢である。

今回は、①夫亡き後の喪失体験から来るうつ状態が2年に及び、うつ病と診断され、漢方治療を希望して受診した76歳女性、②月経開始以来続く月経前症候群が悪化し、月経前不機嫌性障害の重症うつで社会生活に支障を来した28歳女性、③ストレスによる慢性の胃腸症状が、鑑別不能型身体表現性障害と診断され標準治療および抗うつ薬が無効で漢方薬が奏功した23歳男性の3例について述べる。

■ 症例1 夫亡き後のうつ 76歳女性

初診 : X年6月2日

主訴 : うつ・やる気がない・強い自責の念。

現病歴 : 夫を2年前に亡くして以来、うつ状態(肝鬱)が続き、やる気がない(気虚)。寝つきが悪いので、安定剤を眠前服用して熟睡している。起床時、自責の念が強く重度のうつ状態である。入れ歯が合わず刻み食だが、少量なら油物も食べる。足先に冷えを感じる(腎陽虚)。卓球が趣味だったが、疲れるので3週間前に中止(気虚)。以上、誌面の都合上、弁証を()内に記載した。

既往歴 : 阪神大震災後、带状疱疹で入院した。閉経52歳。

家族歴 : 兄弟全員結核で死亡。

現症 : 身長156cm, 体重48kg, 血圧138/78。脈拍66/分, 右寸関脈は細・滑・沈・無力, 左寸関脈は細・滑・無力, 左右尺脈は無力。舌体は紅, 舌苔は少苔(脾陰不足)。

弁証 : 肝鬱, 腎陽虚, 脾陰不足, 気虚。

治法 : 疏肝解鬱, 補腎陽, 補脾気・陰。

処方 : 処方①=補中益気湯エキス(一元製薬)0.8日分/日+スッポン粉末(帰経:肝脾腎, 滋陰清熱・平肝熄風)3g(ミヤコ物産)。

■ 経過

X年6月12日: 精神的いらつきや自責の念が減少したが波がある。たまに、ひどいうつになる。処方①を50日分投与。

X年7月8日: 少しやる気は出てきたが、うつ状態の程度は変わらない。疏肝解鬱の作用が十分でなかったため、疏肝・養肝・温下の目的で、処方②=女神散7.5g/日(10.5g中:女神散料水製乾燥エキス5.0g, 香附子3.0g, 川芎3.0g, 蒼朮3.0g, 当帰3.0g, 黄芩2.0g, 桂皮2.0g, 人参2.0g, 檳榔子2.0g)。

g, 黄連 1.5 g, 甘草 1.5 g, 木香 1.5 g, 大黄 0.5 g, 丁香 0.5 g) を処方①に追加した。

X年7月15日：処方②を併用開始3日目頃から、すごく気分が良くなり、うつ状態が著しく改善した。近所の奥さんと観劇や買い物に行けるようになり楽しくて、今までのことが嘘のような気がする。処方①+処方②を30日分投与。
X年8月18日：非常に調子が良い。廃薬。

■ 考察

前足は夏でも冷たく、難聴があることから、腎陽と腎陰は不足傾向と考えた。また、冷たい牛乳を飲むのが好きで口内乾燥感がある。舌体は紅で、苔は薄であることから脾陰虚。スッポンは脾腎陰を補う。十分補腎されると相生の母子関係で肝陰も補われ、肝鬱の改善にある程度寄与する。補中益気湯は脾気を補い気を上にする作用により、うつ改善に有効だと考えられる。これら2つの効果で、うつをある程度改善したが、完全ではなかった。女神散(疏肝・補気・養血・温腎)を追加すると自責の念が減り、うつが劇的に改善した。特に不眠については治療しなかったが、肝鬱により肝病心に及ぶ母子関係で、不眠が現れたと考え、香附子・木香・川芎の十分な疏肝理気で肝病が心に及ぶことはなくなり、不眠も改善されたと考えた。女神散の丁香が温腎し、肝・心・脾の気も充実して、夫の死という強烈な肝鬱を、十分な疏肝理気・補陽(気)補陰することにより、心脾腎の気も十分に補われ、順調な気の流れが回復したことにより治癒となった。

■ 症例2 28歳女性 月経前不機嫌性障害 (PMDD)

初診 : X年9月26日

主訴 : 月経1週間前から続く病的抑うつ気分・重度疲労倦怠感(肝鬱), ヒステリー発作(肝鬱化火), ときおり嘔吐を伴う下腹部激痛(木乗土), 動悸・手の振顫・不眠(肝陰虚)。PMDD時の暴飲暴食で体重変動がひどい。

現病歴 : 生理開始以来続く月経前症候群(PMS)であるが、最近はだんだん悪化し社会生活に支障を来すようになってPMDDと診断され当院受診。顔面ののぼせ感がある(上熱下寒)。寒い期間は、くしゃみ鼻水が続く(寒飲伏肺)。頻尿・足は冷えやすい・下腿は異様に重だるく感じる(腎陽虚・陽虚水沍)。手掌や足裏発汗・寒冷にもかかわらず多量の冷飲を好む・皮膚乾燥しやすく痒痒を伴う・生理中以外の便秘症で下剤を常用している(脾陰虚)。発汗しやすい。紫斑がでやすい(脾気虚)。

既往歴 : 高校3年時、下腹部激痛で意識喪失した。以来、月経時、鎮痛剤を倍量服用しても痛むため、1~2日間就寝して過ごす。

現症 : 脈は68/分、細滑無力。舌体は淡紅、舌苔は薄白、舌下静脈が瘀。BPは104/50(非生理時)、PMDD時の脈証不明。体重55kg, 身長163cm。

弁証 : 肝気鬱結・血瘀・肝鬱化火, 腎陽虚(水沍)。

処方 : 処方①=加味逍遙散合折衝飲加附子・香附子・烏薬。

■ 経過

X年11月28日：イライラ感減少。下腹痛も減少したが、非常に寒く感じる。のぼせ感が残る（上熱下寒）。処方②＝処方①加肉桂2・桂枝2・巴戟天1.5・続断2・肉蓯蓉2を30日分投与。

X+1年1月29日：調子良い。処方②を30日分投与後廃薬。

■ 考察

月経1週間前からの病態は肝鬱気滞血瘀（重度うつ・下腹部痛）、肝鬱化火（ヒステリー発作・動悸・手の振顫・のぼせ感・不眠）が発生する。月経とは無関係の生来の、腎陽虚→陽虚水沍→下半身・下腿が重い、寒い間はくしゃみ・鼻水が多いなどの症状の併存、陽気虚→衛気虚→易発汗などが考えられる。月経が始まると肝鬱が一斉に消失して無症状となる。処方①で、加味逍遙散は疏肝健脾・和血調血・瀉火、折衝飲で活血化瘀、桂枝と附子で補腎陽し、香附子・烏薬で疏肝理気を助けたため2週間後やや改善した。しかし、非常に寒いと訴えたので、重度の腎陽虚があると考え、温腎の肉桂・続断・肉蓯蓉・巴戟天を追加したところ症状が著減した。おそらく、腎陽虚の程度が強かったためPMDD出現にも関与したと考えられる。血瘀が改善され、温腎され、疏肝理気も改善されたため、強化された腎陽が五臓に陽を与え、各臓の陽が補填され、活性化され、結果的に一連の症状が短期間で改善したと考察した。この例は月経周期と無関係な補腎陽が結果的に、PMDDをも改善したことになる。

■ 症例3 23歳男性 鑑別不能型身体表現性障害

主訴：胃の膨満感・胸苦しさ・違和感、胃痛、腹鳴、ガスが多い。

既往歴：小学3年時、腹痛が続き過敏性腸炎と診断された。以来、ときおり腹痛があった。20歳時、コーヒーの過飲がきっかけで腹満・ゲップで苦しんだ。その後もストレス時、同様な症状があり、頭が働かない感じがした。胃のあれを指摘されたが、投薬治療後、胃カメラで改善が確認された。しかし1カ月後、同じ症状が出たので、胃カメラ検査したが問題なしと診断された。苦しい症状があるのに、検査でなぜ問題なしなのか悩んだ。中学生時、スポーツで腰を痛めて以来、腰の鈍痛がある。腰痛は温めると楽になる（腎陽虚）。以前、ストレスで過食となり8kgの体重増加をきたした。

現病歴：X年12月6日初診。主訴と同じ症状が長期間続いて、胃腸の標準治療が奏功しないため、主治医から一種のうつだと言われ、1週間前から抗うつ薬を処方された。症状はやや改善したが、頭がぼろっとしてすっきりしないし、胃症状もときどき起こる。本人は完璧主義で、物事をきちっとしないと気がすまない。胃の症状で苦しいときは手掌発汗を来す。緊張すると胃の膨満感が悪化する。不眠（肝鬱化火）。胃腸停水傾向を感じる（脾虚生湿）。飲水は熱い物を好む（脾陽虚）。半夏瀉心湯を服用し、胃もたれは半減した（NRS10→5）。のぼせやすい。特に冬は顔面だけほてる（上熱下寒）。精神科の医師は、鑑別不能型身体表現性障害と診断した。

現症 : 身長 168cm, 体重 71kg, 脈は沈弦滑, 72/分。舌体は淡紅・歯痕, 舌苔は薄白, 舌下静脈が瘀。血圧 90/50。便通正常。食欲普通。

弁証 : 肝気鬱結, 肝気犯胃。

処方 : 芍帰調血飲(クラシエ) 4.5g/日+四逆散(ツムラ) 3g/日を投与。

■ 経過

X 年 12 月 20 日受診。症状すべて消失して完治したと報告。

■ 考察

ストレスで過食になったり、症状が悪化するが、検査をしても正常と言われること自体がストレスであったと考えられる。患者は冷たい物は飲みたくないという脾陽虚がベースにあるので、幼少時の過敏性腸症候群もこれが原因かもしれない。しかし、3年以上続いた胃の膨満感・胸苦しさ・違和感、胃痛、腹鳴、ガスが多いという症状は大学に入ってから起きており、性格的にも完璧主義であり、繰り返す膨満感を主とする胃腸症状に標準治療がしばしば無効なことから、ストレス、いわゆる肝鬱が原因と考えられる。現代医学的にも主治医は一種のうつと診断して、抗うつ薬を投与したと考えられる。しかし、抗うつ薬にはある程度反応したが、症状は半分しか改善されなかった。養血健脾・行気活血の芍帰調血飲と疏肝理気柔肝の四逆散で2週間で完治した事実は、胃腸不和による栄養不良傾向の改善と、木乗土による胃症状の改善との相乗効果によると考えられる。現代医学的に言えば鑑別不能型身体表現性障害(うつ)に分類されるが、まさに肝鬱が原因である。このような例は社会人のなかにも多々見られるので、疏肝解鬱の漢方治療は有力な治療手段となる。

文献

- 1) 稲光哲明: 心身医学. 51 巻, p896-901, 2011
- 2) Kimura Yoko et al: The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. vol 33, p325-332, 2007
- 3) 大屋敦子ほか: 日本産科婦人科学会東京地方部会会誌. 55 巻 4 号, p525-528, 2006

謝辞

本報告にアドバイスをいただきました, 平馬直樹先生, 向井誠先生, 陸希先生, 高橋楊子先生に深謝いたします。